シルバー江田島

第 9 号

平成9年1月1日

＜発　行＞
㈳江田島町シルバー人材センター
江田島町ふるさと交流館内
TEL（0823）42－5211

頌春

江田島サマースクール竹細工教室

明けましておめでとうございます

理事長　山佐　一男

明けましておめでとうございます。

昨年はいろいろとお世話になりました。お蔭様で業務も順調に推移しています。

会員は二二〇名で昨年より二十一名増、契約件数は七三八件で五十六件増、特に民間の受注件数が増加傾向にあります。次に契約金額ですが、三、三〇〇万円で前年より一〇〇万円増といずれも増加しています。（十月末現在）

昨年で特筆すべきは、秋月小学校で行った竹細工だと思います。毎週一回会員さんが自ら製作にはげみ、作品を文化祭で展示・即売して大きな成果をあげました。このことは、今後の独自事業の基盤になると喜んでいます。

今年はシルバー人材センターにとって一大転換期にさしかかっています。

広島県では、十二月二日に県連合が発足しました。つまり今年はシルバー人材センター連合元年だと思っています。

江田島町シルバー人材センターでは拠点となるワークプラザの建設が急がれます。今まで皆さんにいろいろと期待を持たせましたが、シルバー人材センター発展のために、今年こそはこれの実現に向けて引きつづき、県・町当局に強く働きかけたいと思います。

今年も皆さんと一緒に頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

最後に今年が皆さんにとってよい年でありますように祈念いたします。

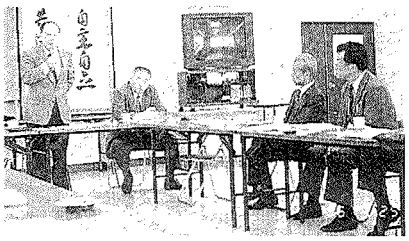
米子広域シルバー人材センターを訪ねて

九月二十五・二十六の両日、米子市シルバー人材センターを中心とする山陰の視察研修に出かけました。

一行は、町の平根・山本さんを含め総勢二十一名。朝六時半、町役場前を出発、切串港から宇品に向いました。広島インターから山陽自動車道、三次インターで中国自動車道、落合インターで米子自動車道と走り、蒜山高原で昼食。バーベキューに舌つづみをうち、大山を右手の車窓に見て、車は一路米子市へ。米子市シルバー人材センターに着いたのは、一時少し前でした。

米子市シルバー人材センターは一階が事務所と作業所、二階は会議室。屋内をざっと一巡して、早速二階の会議室で研修懇談。

山佐理事長が、「江田島でもワークプラザ建設が現実的となり、そのため先輩の米子から建設に至るまでの経過、建設後の活用の仕方などを学んで江田島での建設に生かしたい。」という趣旨の挨拶。



それを受けて米子の川口理事長が、「米子のシルバー人材センターは昭和五十八年に誕生。現在会員は六〇五名、契約額二億円を突破しようと頑張っている。」と挨拶され、ワークプラザ建設の説明に移りました。

「ワークプラザの開館は、平成八年四月一日です。窓口は市役所商工課。施設を作るうえで私たちは何回も要望書を提出しました。財政計画（予算措置）はとかく事務的になりがちになるので、要望が満たされることを願ってしたことです。また、議員さん方にもシルバーの事業の意義を十分に理解してもらうことが大切と考え、議員さんへの要請も行いました。また、議会の産業経済委員の方達を招待し、実際の作業現場を見てもらい、そのあと事業説明を行いました。委員さん達のシルバーへの理解は深まり、ワークプラザ建設の助けになったと思っています。

いま、問題として考えていることの一つは、このワークプラザに段差が多いこと。段差は作らない方がよい。いま一つは、施設が良くなると必要経費が高くなります。ワークプラザを空室にしないための就業開拓の努力が必要だということです。

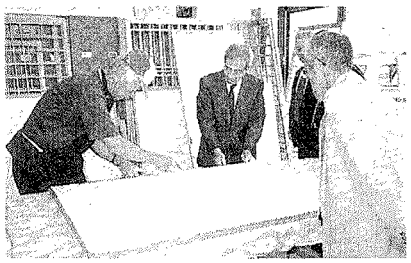
現在、私たちが注目しているのは介護。福祉予算ではサービスを受けられないで困っている人を対象として行っています。年末年始など、ホームヘルパーの手の届かない所を引き受けることもあります。」

米子市シルバー人材センターの仕事は大別すると、

一、事務分野…筆耕、宛名・賞状書きなど
二、技術分野…編集、校正など
三、管理分野…駐車場などの管理
四、折衝・外交分野…ビラ配りなど
五、技能分野…簡単な大工・左官等営繕修理、剪定、襖・障子の張り替えなど
六、軽作業…除草、掃除、荷造り
七、介護分野…介護、福祉サービス

となっています。

このあと、プラザ内の作業場を案内してもらいました。障子・襖の張り替えは職人はだし。聞けばこの仕事を数年しているとのこと。畳の表替えも機械でなく昔ながらの手作業。その手つきには皆が感嘆しました。襖・障子の張り替え、畳の表替えの仕事は江田島では問題があるかもしれませんが、こんなプラザがあればいいなとつくづく思いました。



新年の御挨拶

江田島町長　平木　重巳

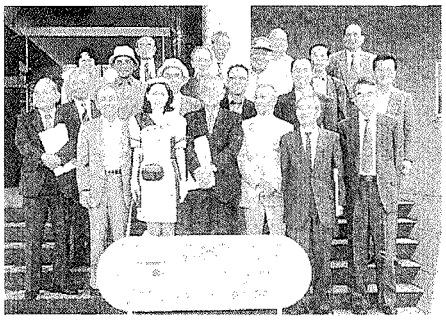
江田島町シルバー人材センターの皆さん、明けましておめでとうございます。新年も心新たに、お互い元気で頑張りましょう。何卒宜敷くお願い致します。

シルバー人材センターも新しい県の組織の中に位置付けられましたが、単一組織としての活動は従来と本質的に変わるものではないと思います。新たな年と共にセンターの更なる発展を願ってやみません。

江田島町シルバー人材センターが発足以来築きあげて来た実績を振り返る時、今やセンターの存在は確固たるものになっていると思います。それだけに会員の皆さんには相当の誇りを持っていただきたいと思います。そしてその自負は責任に結びつくものでなくてはならないと考えています。行政としても出来るだけの応援をいたします。

急速に進展する高齢化社会にあって、人材センターの健全な発展は社会の活性化に繋がる大きな要素であります。世界一の長寿国になった我が国のライフスタイルは大きく変わりました。定年後の余生を如何に生きるかは我々の人生にとって大切な問題です。皆さんがシルバー会員であることに誇りを持って、今年もお元気で活動されることを心からお祈りします。

この日は宍道湖の見えるホテル水天閣に一泊。夕食を共にした懇親会は、談笑、カラオケで盛り上りました。



翌二十六日、車は宍道湖を横断して松江市を通り抜け、中国電力島根原子力発電所へ。原子力館で原子力発電の構造の説明を受け、発電所へ。発電所に入り中央制御室を窓ごしに見学。発電所内は清潔で静か、廊下は補修点検の係の人が往き来していました。

出雲大社で昼食。私は森さんと二人で大社に参拝。他の人達も三三五五神社に参拝していました。この近くはブドウの産地のようで、ブドウ畑が点在していました。ワイン工場付属の売店に立ち寄り、ワインの試飲。さまざまな種類のワインを試飲してご満悦の人も相当いました。

そこから一路江田島へ。途中、仁摩サンドミュージアムに立ち寄り、巨大な砂時計を見学。そこから中国山地を横断。八時前役場に着き解散。とても有意義な旅でした。

今度の旅行は中国電力江田島センターのお世話になること大でした。ありがとうございました。

白壁の町　内子を訪ねて

＜互助会親睦旅行＞

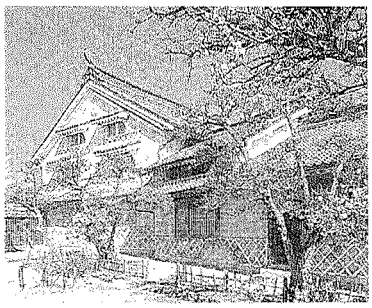
十月二十二日から一泊二日の会員親睦旅行は、総勢四十二名の参加があり、松山方面に足を進めました。

二十二日午前八時二十分呉桟橋に集合、同四十三分フェリーに乗船、松山観光港へ十時四十分着。

直ちに貸切バスに乗り、まずは腹ごしらえと三津浜で昼食をとり、内子町の伝統文化施設「木蝋と白壁の町」の見学に訪れました。

江戸時代から明治にかけて建てられた商家や民家が六〇〇メートルも軒を連ねる八日市護国地区の町並み、その町なかを縫うように走る大州街道を進むと、ひときわ豪華な漆喰塗りの屋敷があり、木蝋資料館になっている上芳我邸を見学しました。

上芳我家は、文久二年（一八六一年）木蝋生産で一代をなした本芳我家から分家したもので、屋敷の内部は肥松をふんだんに使い、外部は重厚な漆喰の壁、名家らしい風格のある家屋で、敷地は、四、三二七平方メートル（一、三一一、二坪）で、この広い敷地に木蝋を乾燥していたそうで平成二年九月重要文化財に指定されたものだそうです。



木蝋資料館上芳我邸

次に生蝋をマダケのしんに丹念になすりつけて作る和蝋燭、ただ一軒残っている大森ろうそく店で、しばしの間足をとめて、その生産工程を見学後、次に訪れたのは歴史民族資料館（商いと暮らし博物館）で、各室には蝋人形が配置されており、店頭での販売、朝食、接客、在庫整理、隠居部屋、炊事の状況等、大正十年頃の商家の生活が再現されていました。

最後の内子座ですが、この劇場は木蝋や生糸等の生産で経済的にゆとりのある時代に、芸術や芸能を愛する人達の熱意により生まれた木造の劇場で、歌舞伎や人形芝居、落語、映画と人々の心の糧として大切にされ、大正五年二月大正天皇の即位を祝い創建されたもので、木造二階建、瓦葺、入母屋造でありますが、老朽のため取り壊されるところ町民の熱意で復元、昭和六十年劇場として再出発、現在では年間七万人余りの見学があり、一万六千人が劇場として利用しているということです。

内子座

敷地面積一〇〇八、九一平方メートル（三〇二坪）純和風の建築で収容人員は六五〇人。

この護国地区白壁の町並みの散策は、平成の時代から一足とびに明治、大正の時代へタイムスリップした感があり、しばし足の疲れも忘れていました。

再びバスで道後温泉に引き返し、今夜の宿泊場所「古湧園」にて湯につかり、疲れをいやしたあとは待ちに待った宴会となり、料理に舌鼓をうつもの、カラオケを歌うもの、それに合わせて手拍子をとるものと楽しいひとときを過ごしました。

翌二十三日朝ゆっくりとして九時三十分タクシーに分乗して鷹の子温泉に移動して、温泉に入るもの、芝居を見るもの、人それぞれ思いのままに昼過ぎまで過ごし、予定より少し早目に出発して海産物センターに寄りおみやげを買いこむもの、荷物が増えるのも何のその、あとは帰るのみと車内が一度に狭くなった感じでした。

松山観光港十五時二十五分発、小用着十七時五十分、両日とも天候に恵まれ、一人の事故もなく、お互いの親睦をより一層深め二日間の旅行を終了しました。

子どもたちに竹細工を教える

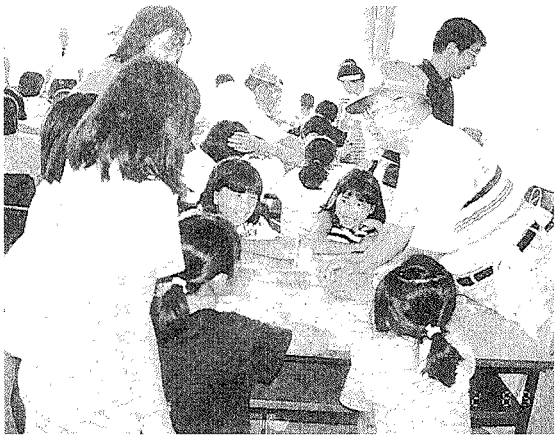
七月二十二日、国立青年の家で行われた海田教育事務所主催の「江田島サマースクール」参加の児童・生徒に「竹トンボ」づくりを教えました。

朝九時、会議室に集まった子どもたちを前に、風呂井事務局長が、「今日は竹トンボを作ってもらいます。羽をひろげてとまっているトンボです。この竹トンボづくりは、どうバランスをとるかがポイント。見本をよく見て、作ってみましょう。」と挨拶。次いで資料に基づいてトンボの胴・羽の小刀による削ぎ方、組み立て方の説明。いよいよトンボ作りです。

まず一つの机に四人一組で座ります。各組に竹トンボの見本が一匹ずつ配られます。指導員として参加した十二名の会員は大体二組に一人の割合で子どもたちの指導・相談にあたります。

子どもたちは見本を手にとって胴や羽の様子をしっかり見、竹削りにはいります。今までナイフを使ったことがないらしく、ナイフを持つ手がぎこちなく、また、竹が固いので削りにくそうでした。中にはナイフの刃を自分の方に向けて削っている子もいます。早速会員が注意。

会員はそれぞれの組についたり、隣の組に移ったりして製作の手助け。



手伝うのは羽のつけ方、バランスのとり方。

二時間余りの工作の中で、子どもたちは一匹または二匹の「竹トンボ」を作りました。ある男の子は「バランスをとるのに苦労しました。でも、尾を細く削ってバランスをとりました。とても面白かった。」と感想を述べてくれました。

教室が終わって昼食。取材に行った私もご馳走になりました。その食堂で江中の卒業生に会いました。元気いっぱい働いている姿を見て嬉しく思いました。

午後は交流館での反省会。用意した材料は一〇〇セット、それをほとんど使いきった。準備は六月はじめからかかり、六回で材料は作り終えた。

「子どもが作るのを見ていると、胴をもっと広くした方がよかったのではないかと思った。」

「そう、胴の幅を七ミリ以上にするとよかったのでは。羽の片方を入れると片方が出る。胴の幅を広くし、羽をさしこむ穴をうまく作れば糊を使わないですむと思う。」

「バランスをとるうえで、後の羽を薄くすることが大切。前羽は厚く重くするとよいと教えた。」

「ただ、小刀の使い方がまずい。刃を自分の方に向けて削っていた子がかなりいた。小刀の使い方ぐらい親が教えなければ。」

「それにしても部屋が暑かった。汗が出て止まらず、子どもの前で恥ずかしかった。」

「高学年の男の子が上手で、早く仕上げて次のをとりに来る。また、真剣にとりくみ、よく質問してくる子がいてとても嬉しかった。」

「でも、言うことを聞かない子には困った。言うとハブテルし。」

「この次からは材料は三割増しで用意する必要があると思う。」

「もっと早く乾く糊を用意すべきだと思う。」

などが出され、話は十一月の町の文化祭、さらには竹細工の交流館出品へと移りました。

町の文化祭（会場は切串）に向けて竹細工（トンボ・カニなど）の工作を続ける。これからは毎週月曜日の午後、秋月小学校で行う。

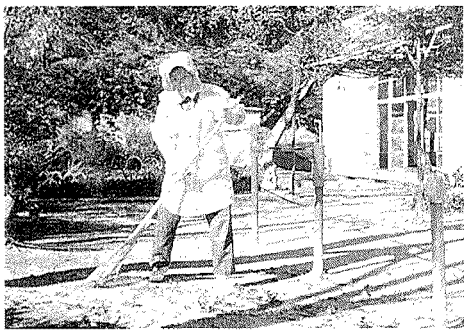
文化祭では、「シルバー人材センター創作展」と「親子創作コーナー」の二つに責任をもつ。

また、交流館の売店で「カニ」を売ろうという話では、ケースに入れる、製作者の名前を入れる、価格は、などと話は弾みました。

支える仲間

大小二種類の熊手を使って

朝の十時前、小用保育所を訪ねました。



保育所の南、つつじの植えこみを掃いていた女性会員に聞きました。

「昨日はつつじの刈り込み。そのあとの落葉を掃き集めています。朝寒くても仕事をしているとあたたまります。」

と掃く手を休めず話してくれます。

見れば熊手が二種類。

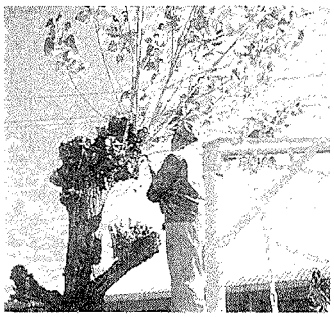
「小さいのは植え込みの下を掃く時、大きいのは広い所を掃く時に使います。」

「小さいのでやるときれいにとれま

われら町を

すよ。」

東向きの門の傍の青桐の枝打ちをしている会員の所に行きました。



「今日は四人の予定だったのが、急に切串の防除に行くことになったので、いまは二人でやっています。ここで午前中で終えて、午後は別の場所に行きます。」

脚立をしっかり立て、その上に登って二、三センチくらいの太さの枝を根元からスパッと伐り落とします。落とした枝は五十センチくらいに切って集めます。

「短くしておかないと焼却炉がとってくれません。鹿川の焼却場だといいのですけど。」

「桜やイチョウは、子どもが当たって危なげな所を切って落とします。」

「お気をつけて…」

と挨拶して帰りました。

松の手入れ

これも十一月の中旬。

鷲部の大下さん宅の庭木の剪定作業と聞いて出かけました。事務局で「鷲部公民館のすぐ上ですよ。」と聞いていたのですが、なかなかわからず、ついに尋ねてしまいました。

「寒くなりましたね。」

のあいさつで始まり、

「よくここがわかりましたね。」

仕事は一昨日から。

「松の木が十五、六本あります。個人の家でこんなに木のあるのはめずらしいです。」

「松は一枝一枝やります。新しい葉が出ると古い葉は開くので、古い葉をしっかりとらねばなりません。手間がかかります。」

「手がチクチク痛いでしょう。」

と聞くと

「松ですからね。」

とあっさり言って、

「枝の重なり合った所は日当り、風通しのよいように、長いのを取って短いのを残します。なかなか思うように行きません。」

仕事の手を休めずに話してくれます。

大下夫人が庭に出て、

「男手がないので放っておくと、枝が伸び放題。こうしてやってもらうと、庭がさっぱりして助かります。」

と話してくれました。

貸しベッドの撤収

十一月半ばのある日、社会福祉協議会が貸し付けたベッドの撤収作業があると聞き、十一時半頃、宮の原の佐々木さん宅を訪ねました。

この日はベッド三台の撤収、津久茂、鷲部と済ませて佐々木さん宅は三軒目。

十一時半すぎ、シルバーのトラックと乗用車が到着。トラックには会員、乗用車には社協の人が三人。

佐々木さんの案内で部屋に上がりました。彼女の話では、これを使っていたお祖母さんが入院したので返すとのこと。

まずベッドを解体し、それを縁側まで運びます。そしてトラックに積みこみます。トイレに立つ時の支え器具は佐々木さんが買った物。要らなくなったので寄付するというのでそれも積みこみます。人数が多かったせいか、トラックへの積みこみはすぐすみました。

社協の方に聞きますと、在宅で介護の必要な方への貸出しは多く、その主な物はベッド、車椅子、床ずれ予防マットなどとのこと。

佐々木さんのお礼の言葉をあとにトラックは去って行きました。

折にふれて思うこと

生物は種の保存に努める。人も生物だから当然のこと、年老いても異性に対しての憧憬は若い頃とあまり変わりないように思うが、体力、行動力等は、愕然とするほど衰えてしまった。だから、今は若くて純情だった頃のようにプラトニック・ラブといった感じか、せめて気持ちだけは、何時迄も若く持ちたいと思うのだが、佇しく思い耽ってているとき浮かんだ恋歌一首（古今・新古今　日栄社）

もの思ひけるころ、ものへまかりける道に野火の燃えけるを見てよめる（伊勢）

冬枯れの野辺とわが身を思ひせば燃えても春を待たましものを

口訳…もしも、我が身を冬枯れの野火と思えるならば、あの野火のように情熱を燃やして、再びめぐり来る春を待ちもしようものを野火でない私には、二度と春は巡って来ない

恋歌

匿名希望

多くの人に知り会えてよかった

十二月三日午後一時から交流館の二階で座談会（放談会）を持ちました。参加者は山佐一男・宇根川徳夫・山下絹恵・久留須博恵の四氏。司会は広報委員の森修一でした。

シルバーに入会しての感想は

司　会　今日は放談会、思っていることを話してください。宇根川さんも山下さんも発足当初からの会員ですね。退職してからの二十年は働く期間と言われています。この間の社会参加を保障する立場で山佐さん達が中心となって「高能協」を結成して今日に至っています。当初は失業対策と見られていましたが、今はそういう意識は払拭されています。ところでシルバーに参加されてどういう感じをお持ちですか

宇根川　定年後、百姓をしていましたが、シルバーに入ったことで生き甲斐を覚えるようになりました。これがなかったら今まで生きてこれなかったのではないかと思うことがあります。ここに入っていなかったら畑ばっかり。とてもありがたい。それに、江田島にいても知らない所が多い。仕事でいろんな所に行けるし、多くの人と知り会えましたし。

山　下　連れが沢山できました。

山　佐　小学校の違った人達と知りあえ、友達が多くなり、人生が開けました。

司　会　多くの人と知り会え、それが生き甲斐になりますね。

介護を必要としている人が多い

司　会　山下さんは介護の仕事をやっておられたようですが

山　下　右肩を痛めて今はやめています。で、他の五人の方が月曜から金曜までやってくれています。週に一回勝手に行かせてもらっています。行くとお年寄りが「久しく顔を見せなかったが、生きていたんか」と喜んでくれ、また行きたくなります。お年寄りは在宅介護を望まれますが、それがむずかしいんですよね。

司　会　シルバーも家事援助を重視してとりくもうと考えています。

山　佐　母は一人暮らし、息子は東京にいる。この人は他人と話がしたい。だから訪ねてほしいと願っていると聞きました。

山　下　ヤクルトを配っていても、三～五分では帰らしてもらえない。話がしたいのでしょうね。

久留須　私はディサービスの介護をもう五年くらいやっています。

山　下　今は私を含めて六人。とても楽しかった。お年寄りの送迎はシルバーの仕事であとはボランティア。お年寄りの傍にいて話をしてあげる。寮母さんも遠足や忘年会に呼んでくれ、また、仕事着も渡してくれて。お互いに甘えるところは甘えていきたい。女の人は何人いてもいい。もっと人手が欲しいと思います。

久留須　お年寄りの中には誠心園と青木病院の両方に行っている人がいます。ディサービスは月に五回、それだけディサービスを受けたいのですね。

二時間以上の仕事ならします

山　佐　術校の案内をしていますが、案内が終わった時に拍手をしてくれます。これがとても嬉しい。

司　会　術校案内の人数もまだ必要ですが、これからは介護などの仕事が大事になります。事務局は介護を必要とされる方をさがさねば…

山　佐　シルバーは自分に合わせて仕事をします。それがシルバーのよい所ではないかと思います。

宇根川　草刈りをしているとその範囲が広がってくることもあります。時間があればやってあげています。仕事のふえることはあっても減ることはありません。

山　下　男手が欲しい時があります。都会でいう便利屋さんのような人がいたらと思います。

司　会　そんな時はシルバーに頼まれたら。今、個人からの依頼もふえています。基本的には最低二人で二時間単位の仕事から受けています。

山　下　一人暮らしの家がふえているのでそういう希望がふえてくるでしょうね。

山　佐　マキ割りの仕事をやってひどく喜ばれたという話を聞きました。

司　会　困っていることの手伝いをする、それがシルバーの仕事では。

山　下　女の人の場合はよいが、男の人の一人暮らしは大変ではないかと思いますよ。また、身体の弱ってきた人も本当に困っているはずです。給食の配膳を考えてもらうとよい。他所ではやっているし、要望はきっと多いと思います。いま、月に一回配膳していますが、お金を出してもよいからやってくれればよいのに。給食センターあたりが副食物をつくりシルバーが配布する…

司　会　町が考えてくれればよいと思いますが……

困ったことは

宇根川　仕事に行った所で別の仕事を頼まれることもある。また、数人で行くと「この前は二人で来て一日で済ませたのに今日は大勢で来て」と言われたこともあります。うっかり人数をふやすのは考えものですね。また、夏場と冬場では仕事のハカが違う。そこが注文された人には分かってもらっていない。

司　会　それは事務局の仕事ですね。

宇根川　『よくやってくれた』と言われると気持ちがよい。ペンキ塗りに行ったらとてもうるさく言われました。持って行ったペンキが違うと言われ、塗る所も注文よりふえていました。余分に仕事をして叱られたのでは割に合いません。

司　会　事務局が注文主に仕事の内容をはっきり聞き、また、こちらの事情もしっかり話しておくことですね。また、注文主に「気持ちよく働かせてくれ」と頼むことも大切でしょう。

山　佐　いずれにしてもちょっとしたお手伝いができるのがシルバー。明日のめあてを持って生活できるのがシルバーということですね

司　会　いまの山佐さんの言葉をまとめとしてこの放談会を終わりたいと思います。今日はどうもありがとうございました。これからも仲良く、長生きしましょう。

好評だった竹細工のカニ・セミ・・・

――江田島町文化祭に参加して――

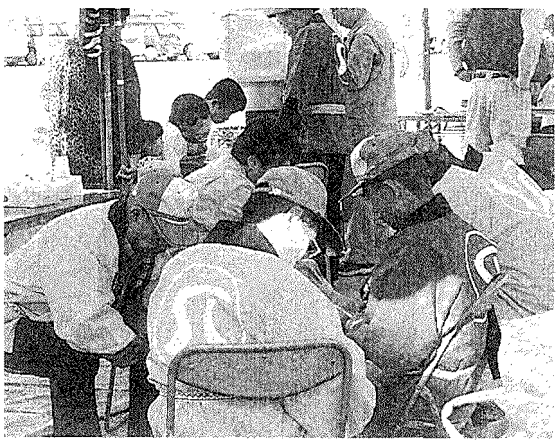
十一月三日、町の文化祭に昨年に引続き参加しました。

当日切串中学校へ午前八時三十分に集合し、準備を終了して、あとは町民の来室を待つ。

二階理科室の「シルバーセンター展」には、会員の作品が室内いっぱいに展示され、その種類も四十二種の多数にわたっており、正に圧巻でした。これは会員が約半年も前から文化祭を目標に秋月小学校工作室を会場として、週一回、それぞれの種目を相互に学習しつつ製作したもので、竹細工をはじめ木工品・手工芸品を主体とし、このほかは個々人の作品で、水彩画・花台・腕ぬき・トールペイント等。その状況は、さながらミニ絵画店、竹工芸店、小間物店等を一堂に集約した観があり、見る人の目先を次々にかえ、その都度、感嘆の声があがっていました。

特に好評であったのは、竹細工のかに・せみと手芸品のティシュケース・筆立等、値段の手頃さもあって、売上げ数が多く、全品目の売上げ点数は三〇〇点を超え、午後三時には、ほとんどの作品が売切れとなる状況でした。金額も総計一六七、三五〇円と昨年の二倍近い額となり、事務局の下平次長は、金の受け渡しと売上表へのチェック記入等で息つく暇もないひとときもあって、うれしい悲鳴をあげるほどでした。

一方、小学校に出展した親子創作コーナー及び綿菓子は子どもに大人気で、価格の安さも幸いしてか、常時十人位並んで待つ程でした。したがって、綿菓子を作る下野・西野両会員は昼食も満足に食べられない程忙しい一日だった様子でした。子ども達だけでなく、年配の人も昔を思い出し、童心にかえって買って行きました。



親子創作コーナーでは、竹笛に人気があり、競って吹くために昔懐しい竹笛の音が会場から校庭に響いて、秋の一日、催しの華いだ雰囲気をつくってくれたと、自己満足だろうか、半年かけて準備して出展参加した甲斐があったと、充実感に浸りながら、午後五時から後片付けに移りました。

工芸教室案内

秋月小学校図工室で、年間を通して定期的に工芸教室を開いています。

竹や木を素材に、昆虫や動物また生活雑貨の製作にチャレンジしてみませんか。

会員の皆さんの参加をお待ちしています。

- とき　毎週月曜日
  午後1時～4時30分
- ところ　秋月小学校二階図工室

事務局だより

剪定、造園講習会開催のお知らせ

剪定・造園の知識・技能のレベル向上を図るため、次のように講習会を開催いたします。既に剪定作業に従事しておられる方、新しくチャレンジしてみたい方、多数ご参加下さい。

一、日　時　平成九年一月二十九日㈬　午後一時半から
一、場　所　江田島中学校　校庭
一、講　師　佐伯郡湯来町
　造園業　宮内民生先生

なお、参加を希望される方は、一月二十二日㈬までに、事務局へご連絡下さい。

保健婦さんからのアドバイス

高齢者の健康管理シリーズⅣ

おだいじに

＝年末年始に気をつけること＝

いよいよ新年の幕明けです。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

ふだんの生活のペースが崩れがちな年末年始には、思わぬ事故が起こりやすく、特にお年寄りがもちを詰まらせる事故は多く発生しています。

お年寄りは、つばの量が減り、かむ力、吐き出す力が弱いので、のどに詰まりやすくなるのです。もちはベタッとくっつき、息ができなくなるので、大事になってまう恐れがあります。救急車で運ばれた人のうち、七割近かくの人が命を落としているというから油断はできません。

事故を防ぐためには、口の中に食べ物がある間は話をしないことです。思わず口で息をしたとき、気管の方に吸い込む危険があるからです。もちは小さく切って、汁物と一緒に食べること、ゆっくりとよくかんで食事をすることも大切です。

万一、詰まらせて苦しみだすと、周りの者はとっさのことに慌てふためいてしまいます。落ち着いて背中をたたいたり、指をのどの奥に突っ込んで吐き出させるようにしましょう。もちが見えるようなら、指でかき出すようにして下さい。電気掃除機のホースの先を口の中に入れて、吸い出すのも一方法ですが、うまくいかないときは、早く救急車を呼びましょう。

年に一度のお正月。新年早々、大騒ぎにならないよう、みんなで注意しましょう。

㈶広島県健康福祉センターの「おだいじに」から転載

＜著者　檜脇　千里氏＞

平成8年度上半期事業実績（平成8年4月～9月）

	技術群（自動車運転・電気設備等）	技能群（大工・左官・剪定・塗装等）	事務整理群（一般事務・あて名書・毛筆等）	管理群（日当・当直等）	折衝外交群（配達等）	軽作業群（除草・屋内外清掃等）	サービス群（家事援助・観光ガイド等）	その他（芸能）	合計
受注件数	(54)	(103)	(6)	(4)	(3)	(189)	(12)	(1)	(372)
(件)	70	105	11	6	9	225	12	1	439
就業延人員	(591)	(984)	(15)	(406)	(173)	(2,947)	(1,235)	(1)	(6,352)
(人)	414	744	62	753	153	3,301	1,158	1	6,586
契約金額	(1,965,026)	(5,434,045)	(60,173)	(2,704,999)	(984,932)	(11,385,917)	(3,358,645)	(3,150)	(25,896,887)
(円)	1,892,487	4,296,295	295,332	3,543,649	598,611	12,689,242	3,126,314	3,150	26,445,080

（　）内は平成7年度上半期実績

編集後記

新年おめでとうございます。

今年も会員の皆さんに喜んでいただける広報紙を作ろうと張りきっています。

昨年の新しいとりくみは「江田島サマースクール」で「トンボ」づくりを教えたこと。

次は、参加した子どもたちの感想です。

「一番楽しかったのは竹細工です。トンボを作る時、見た目は簡単そうだったけど、実際作ってみるとむずかしかった。羽をはめたりトンボをつけたりしてやっとできたと思うと、前後左右がつり合わなかったりしました。シルバーの先生が手伝ってくれたおかげで立派にできました。」

また別の男の子は、

「ぼくがこの三日の中で一番心に残ったことは竹とんぼづくりです。」

海田教育事務所は来年のスクールもお願いしますと言っていました。

また今回は新しい試みとして「座(放)談会」を持ちました。会員の皆さんに言いたいことを言ってもらう。この企画はこれからも続けます。

私たちはこの広報紙がマンネリにならないよう心掛けています。皆さんのご意見、ご感想をお待ちしています。

今年もお互いに元気で江田島町を支えていきましょう。